

臨床リハビリテーション場面におけるクライアントとより良い関係を形成するための コミュニケーションと介入技能評価

Communication and intervention skills assessment to build better partnerships with clients in clinical rehabilitation setting (CISA)

「臨床リハビリテーション場面におけるクライアントとより良い関係を形成するためのコミュニケーションと介入技能評価（Communication and intervention skills assessment to build better partnerships with clients in clinical rehabilitation setting ; 以下、CISA）」は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士（以下、セラピスト）が、クライアント（対象者）とより良い関係を形成するために必要なコミュニケーションと介入技能の状態について知る自己評価ツールとして開発されました。

CISA を用いることによって、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のいずれのリハビリテーション専門職においても、コミュニケーションと介入技能の自己評価が可能となります。また、CISA を実施後に課題を検討し、不足した技能の内省や改善を自発的に働きかけることによって、新人を含むセラピストの人材教育に役立ててすることができます。

<使用方法>

- ・CISA は、全 27 項目の質問からなります
- ・現在の自分をふり返り、各質問に対して「1＝非常に問題あり」「2＝問題あり」「3＝問題もないが、良くもない」「4＝良い」「5＝非常に良い」で回答ください
- ・CISA の実施時間は、最長で 10 分です
- ・質問 1 から質問 6 までは「リハビリテーションを行う基本的な姿勢とコミュニケーション技能」に関して、質問 7 から質問 9 までは「リハビリテーション開始時の介入技能」に関して、質問 10 から質問 27 までは「リハビリテーション過程における評価、計画、治療の介入技能」に関して問う質問で構成されています
- ・各質問の難易度についても分析されており、セラピストは自己評価を実施後、自分がどのくらいの難易度の技能を身につけることができているか、あるいは、不足しているかを知ることができます
- ・難易度の易しい技能から、無理なく自分のペースで課題を立てて、技能の改善に働きかけてください
- ・課題を立てる際には、身近な上司や同僚に相談するのもよいでしょう

* 開発者の許可なく CISA の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます

臨床リハビリテーション場面におけるクライアントとより良い関係を形成するためのコミュニケーションと介入技能評価（CISA）

項目	質問項目内容	非常に 問題あり	問題あり	問題もないが 良くもない	良い	非常に良い
1	対象者との関係を重視する姿勢が備わっている	1	2	3	4	5
2	対象者のことをより詳しく知ろうとする姿勢が備わっている	1	2	3	4	5
3	対象者を適切に受け入れようとする姿勢が備わっている	1	2	3	4	5
4	対象者への言葉遣いを調整することで、言葉に丁寧さや親しみをこめることができる	1	2	3	4	5
5	対象者に行う接遇で、不快を感じさせないように配慮できる	1	2	3	4	5
6	対象者との約束を守るための行動をとることができる	1	2	3	4	5
7	対象者やキーパーソンと関わる前に、一般情報を事前に収集することができる	1	2	3	4	5
8	対象者やキーパーソンに会った時に、一般情報を聴取できる	1	2	3	4	5
9	対象者や家族に、リハビリテーションについてオリエンテーションができる	1	2	3	4	5
10	心身機能を評価できる	1	2	3	4	5
11	生活上の活動を聴取したり、観察したりして理解できる	1	2	3	4	5
12	対象者やキーパーソンのニーズを確認できる	1	2	3	4	5
13	対象者やキーパーソンのニーズをもとに、妥当な目標を適切に設定することができる	1	2	3	4	5
14	対象者やキーパーソンに介入内容を説明して決定し、確認し合うことができる	1	2	3	4	5
15	簡単な(できそうな)ものから、努力が必要な(難しい)ものまで、介入の段階づけを行うことができる	1	2	3	4	5
16	日々の状態や意欲に合わせて、介入できる	1	2	3	4	5
17	介入による対象者やキーパーソンの変化を知ろうとすることができる	1	2	3	4	5
18	介入終了後、対象者に配慮して、できたことやできなかったことなどを伝えることができる	1	2	3	4	5
19	介入で見受けた対象者の状態や思いの変化を共有することができる	1	2	3	4	5
20	他職種と連携して介入できる	1	2	3	4	5
21	対象者の地域や自宅といった環境をふまえた介入ができる	1	2	3	4	5
22	対象者と協力し合って、介入できる	1	2	3	4	5
23	対象者の変化に合わせて、長期的な見通しを考えて介入することができる	1	2	3	4	5
24	対象者やキーパーソンと達成できた目標を考え、確認することができる	1	2	3	4	5
25	達成できなかった目標を、妥当なものに変更することができる	1	2	3	4	5
26	可能な限り介入終了後の病状や障害の予後予測ができる	1	2	3	4	5
27	介入終了後に、必要性のあるサービスの紹介や自己管理方法の指導等のフォローアップを多職種でできる	1	2	3	4	5

3.00 難しい

CISA の質問項目の難易度*

- 質問 26 可能な限り介入終了後の病状や障害の予後予測ができる 1.11
質問 27 介入終了後に、必要性のあるサービスの紹介や自己管理方法の指導等のフォローアップを多職種でできる .97
質問 25 達成できなかった目標を、妥当なものに変更することができる .68
質問 10 心身機能を評価できる .61
質問 13 対象者やキーパーソンのニーズをもとに、妥当な目標を適切に設定することができる .54
質問 24 対象者やキーパーソンと達成できた目標を考え、確認することができる .53
質問 23 対象者の変化に合わせて、長期的な見通しを考えて介入することができる .49
質問 21 対象者の地域や自宅といった環境をふまえた介入ができる .40
質問 18 介入終了後、対象者に配慮して、できたことやできなかったことなどを伝えることができる .36
質問 15 簡単な(できそうな)ものから、努力が必要な(難しい)ものまで、介入の段階づけを行うことができる .33
質問 14 対象者やキーパーソンに介入内容を説明して決定し、確認し合うことができる .32 質問 20 他職種と連携して介入できる .32

- 質問 19 介入で見受けた対象者の状態や思いの変化を共有することができる -.01
質問 12 対象者やキーパーソンのニーズを確認できる -.18
質問 1 対象者との関係を重視する姿勢が備わっている -.24 質問 11 生活上の活動を聴取したり、観察したりして理解できる -.24
質問 22 対象者と協力し合って、介入できる -.26
質問 5 対象者に行う接遇で、不快を感じさせないように配慮できる -.30
質問 7 対象者やキーパーソンと関わる前に、一般情報を事前に収集することができる -.37
質問 8 対象者やキーパーソンに会った時に、一般情報を聴取できる -.46 質問 17 介入による対象者やキーパーソンの変化を知ろうとすることができる -.46
質問 16 日々の状態や意欲に合わせて、介入できる -.48
質問 9 対象者や家族に、リハビリテーションについてオリエンテーションができる -.62
質問 6 対象者との約束を守るための行動をとることができる -.64
質問 4 対象者への言葉遣いを調整することで、言葉に丁寧さや親しみをこめることができる -.76
質問 3 対象者を適切に受け入れようとする姿勢が備わっている -.78
質問 2 対象者のことをより詳しく知ろうとする姿勢が備わっている -.86

-3.00 易しい

*各質問は、-3.00(易しい)～+3.00(難しい)の範囲内の数値で表されています